



歌舞伎を毎年奉納する伝説が語り継がれる「田峰観音」

愛知県設楽町にある「三河三観音」のひとつ、田峰観音（谷高山高勝寺）。田峯城の守護のために創建され、毎年行われる「奉納歌舞伎」と「田楽」

は貴重な伝統芸能として見ものとなっています。その背景には、田峰観音にまつわるある「言い伝え」があります。



1644年（正保元年）、焼失した日光寺を再建しようと、田峯の村人たちが段戸山から木を伐りだし、新しい日光寺を完成させました。ところが、再建資材の中に御林（幕府が領有した山林）で伐採したものがあつたこ

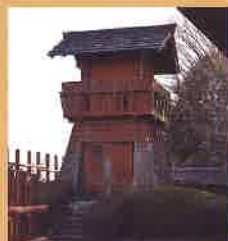
田峯城について

1470年（文明2年）、足利幕府の備前が失墜した下野上の時代に、この地で力を地っていた筑前守が築城した山城です。田峯城が物語るのは、近き歴史の記憶。戦地内には、生きながら掘引きされたと伝えられる「道三処刑の地」や、処刑された人々を祀る「首塚」などが遺されています。歴史的資料は極めて少なく、本丸御殿、本丸大手門、櫓門などの復元には、他の中世城郭が参考にさ



②田峰観音

れています。標高387mに構えた「物見台」からは、寒流川と壮大な山々の雄姿が広がります。



奉納歌舞伎

昼夜続く田楽三部作。豊作を予祝する夜田楽に注目。



奉納歌舞伎

毎年2月の第2日曜日に、田峰観音の言い伝えを伝承すべく、田峰観音高勝寺境内の芝居小屋で「奉納歌舞伎」が行われます。田峯に住む全世帯がこの祭りに参加し、地元から離れた人もこの時だけ帰省し参加するほど、最大の熱量をもって執り行われます。その歴史は約360年、親から子へと世襲制で受け継がれてき



とが覚覚。代官の耳に情報が入り、田峯の村人たちは盗伐の罪に科せられる危機に直面します。そこで、「村が3軒になっても、お祭りには必ず芝居を奉納しますから、田峯の村を救ってください」と観音様に助けを乞いました。すると……暦では夏だというのに、大雪が降りました。代官は「こんな寒いところへ木を伐り出しにはこないだろう」と判断し、結果村から罪人を出さずにすんだのです。この伝説に基づき、現在も田峯の人たちは毎年必ず、観音様に奉納するための芸能を続けています。



田峯田楽について

奉納歌舞伎の前日、毎年2月の第2土曜日に開催される伝統芸能。こちらにも国の重要無形民俗文化財に指定されています。昼田楽・夜田楽・朝田楽の3部構成で行われ、午前8時から始まる「昼田楽」は神を祭る

ました。同時に子どもたちは授業で歌舞伎を習うなど、幼い頃から英才教育を受けています。その舞いは非常に高いクオリティで、目の肥えた人からも「プロ顔負け」と言われるほど評価は高く、毎年訪れるファンもいるほど。舞台は3週間という短期間で作り上げられますが、その練習は厳しく、妥協がありません。国の重要無形民俗文化財にも指定され、これからも永続的に受け継がれるであろう崇高な文化です。

行事と舞いが行われます。午後4時からの「夜田楽」では、豊作を祈願する田遊びが、そして午後9時から行われる「朝田楽」では、かがり火をたいて面の舞が行われます。中でも「夜田楽」で1年の農作業を模倣的に演じる舞が珍しいとされ、歴史上でも貴重な文化に位置付けられています。

